



国立研究開発法人

国立がん研究センター

National Cancer Center Japan

Information and Communication Technology を用いたがん患者情報の収集と解析研究

「がん患者における労働生産性変化の実態調査

(プレゼンティズム/アブセンティズムの解析から)」

RFLJプロジェクト未来助成金

国立がん研究センター中央病院 肝胆膵内科/先端医療科 近藤俊輔

- 本邦では毎年約100万人が新たにがんと診断されている。
- このうち約3分の1は就労世代(労働生産年齢)の患者である。
- がん治療と就労の両立は社会的な課題となっている。

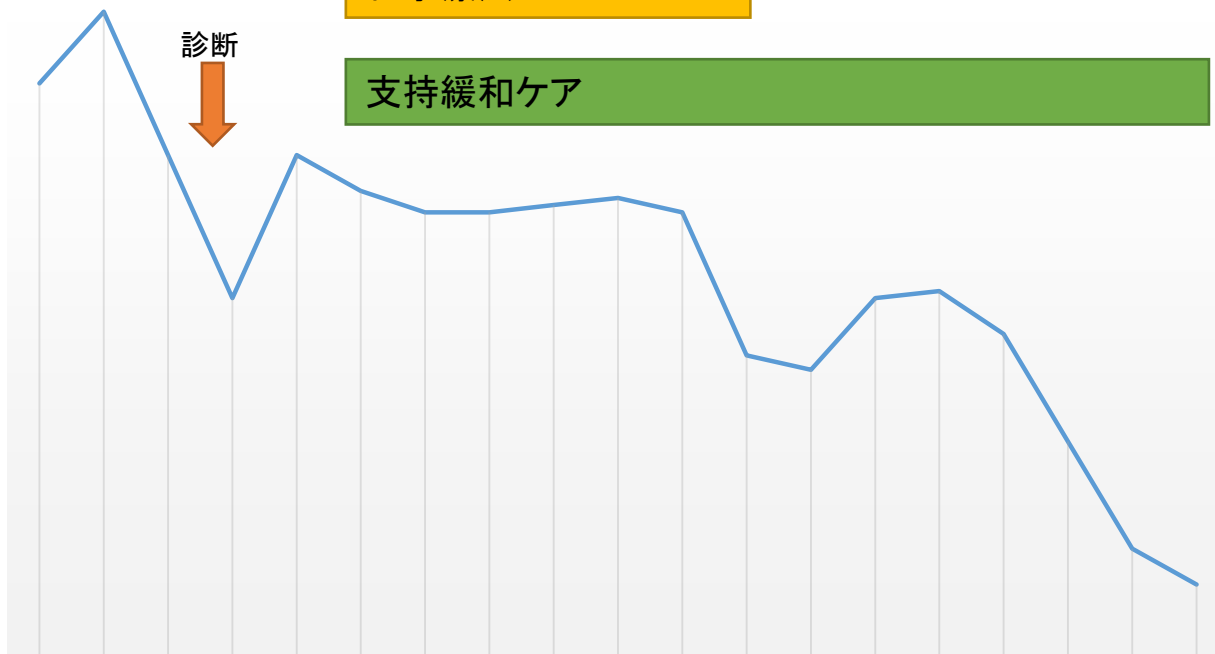


診断



化学療法

支持緩和ケア

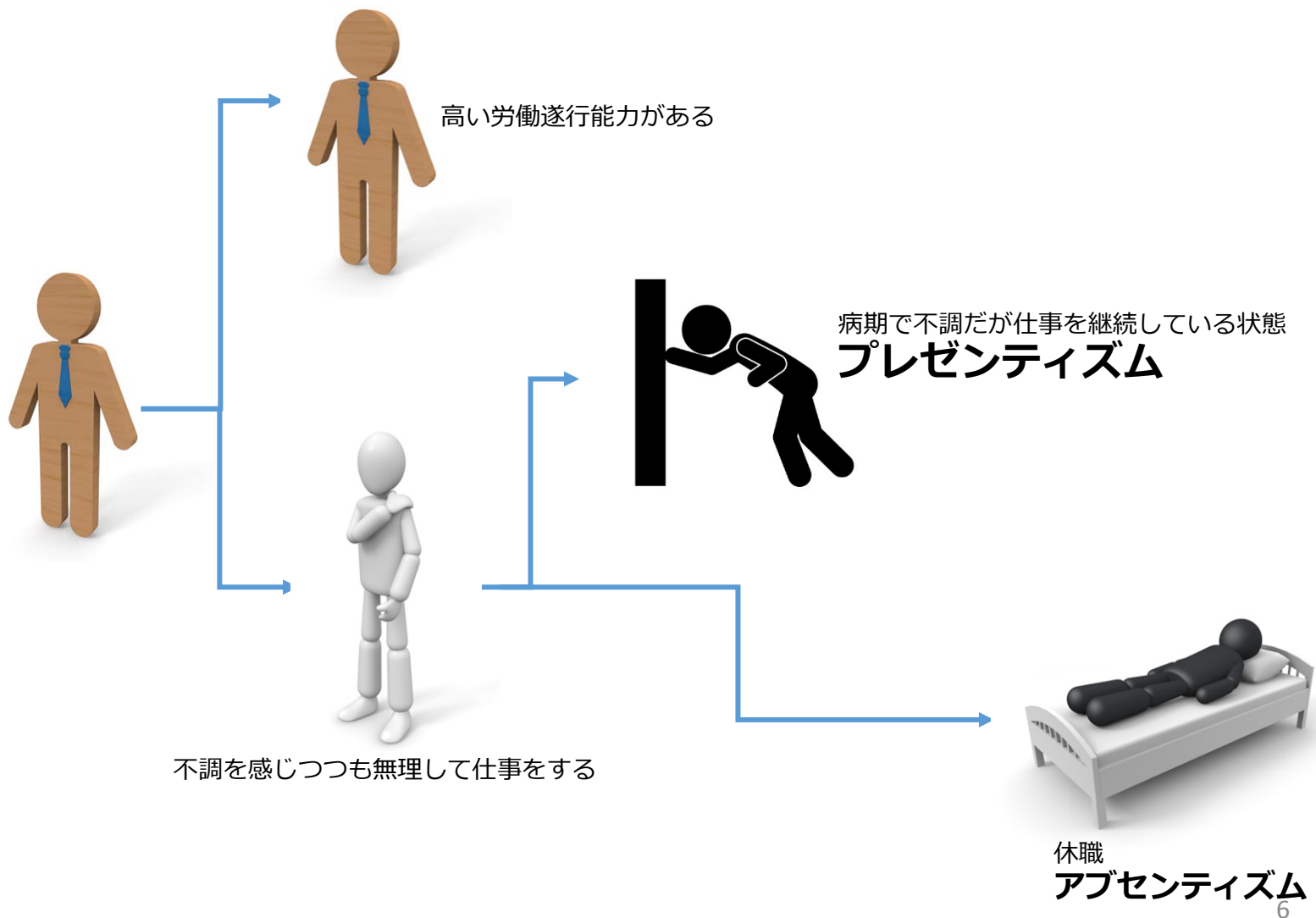


— パフォーマンス

労働状況を評価する指標

- **プレゼンティズム(プレゼンティーズム Presenteeism)** : 出勤しているにも関わらず、心身の健康上の問題により、十分にパフォーマンスが上がらない状態
- **アブセンティズム(アブセンティーズム Absenteeism)** : 欠勤や休職、あるいは遅刻早退など、職場にいたることができず、業務に就けない状態

プレゼンティズム/アブセンティズムのイメージ



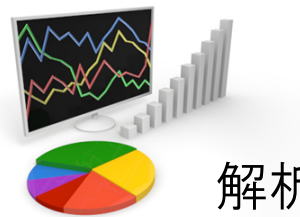
がん患者におけるプレゼンティズム

Authors	No. of survivors	Age (mean)	No. of controls	Findings
Carlsen 2013	170 breast cancer	54.2 yrs	391	8.7 vs. 9.0
Lindbohm 2012	1449	Range 25-64 yrs	2709	8.4-8.8 vs. 8.7
Torp 2012	653	51.9 yrs		
Gudbergsson 2011	446	Male 45.2 yrs Female 52.9 yrs	588	Male 8.4 vs. 8.6 Female 8.0 vs. 8.6
Lee 2008	408	>18 yrs	994	37.0% vs. 10.6% (eported less work-related ability than before)
Taskila 2007	591	Range 25-64 yrs	757	Female 8.25 vs. 8.37 Male 8.37 vs. 8.23
Ahn 2009	1594	Range 20-60 yrs	415	17.9 % vs. 11.6% (eported less work-related ability than before)
Gudbergsson 2008	446	49.1 yrs	588	8.2 vs. 8.6
Gudbergsson 2006	430	Male 45.1 Female 52.9	598	Male 79% vs. 90% Female 79% vs. 88%

がん患者におけるプレゼンティズムはQOLを示す一つの指標である可能性がある。

われわれもがん患者の労働状況をプレゼンティズムで評価して現状を明らかにしたい。

しかしながら、多数の患者に対するアンケート調査は莫大な費用と労力を要する。



解析



クラウドサーバーに集積



ResearchKitを用いたアンケート調査



就労しているがん患者

使用する評価ツール

WHO-HPQ (WHO Health and Work Performance Questionnaire, short form) 日本語版

職場での精神面を含め健康上の理由で仕事のパフォーマンスが低下している状態（プレゼンティーズムPresenteeism）を評価するために開発された質問票。

(<http://www.hcp.med.harvard.edu/hpq/info.php>)

EQ-5D-5L

欧州で開発された、医療従事者でなくとも簡易に測定できる健康関連 QOL (HRQOL) の尺度として幅広く用いられている調査表で、わが国では翻訳された日本語版EQ-5Dがある。

日本語版PRO-CTCAE™ Patient-Reported Outcome (PRO) Common Terminology Criteria for Adverse Events (CTCAE)

PRO-CTCAEは、医療者による評価だけではなく患者自身による主観的評価をがん臨床試験の有害事象評価に適用し、より正確度と精度の高いグレーディングを行う評価システムを構築することを目的として、米国NCIの研究班によって開発。

日本語版は「独立行政法人日本学術振興会科学研究費助成事業 [学術研究助成基金助成金 基盤研究(C)] 課題番号2459059 (主任研究者：山口拓洋)」の成果として発行。

今回の研究により明らかとなること

- 今回の研究では様々ながんの患者のプレゼンティズム/アブセンティズムを評価する。
- がん患者の治療による労働生産性(プレゼンティズム)の変化。
- 治療開始からの時系列での労働生産性(プレゼンティズム)の変化。(複数回の調査が可能)
- QOLの指標との相関。
- 化学療法中の患者は毒性と労働生産性(プレゼンティズム)との関連。

多くの方に参加いただくことにより調査データの質が高まります。